

日頃から災害への備えを

今年の夏休みは、ことのほか雨が多く、各地で冠水、土砂災害と、痛ましい様子が報じられました。改めて、自然の力の大きさとともに、どうすることもできない人間の無力さを感じました。そして、日頃から言われている「防災教育」の大切さも感じました。神戸市でも2週続きで防災指令が発令されるという、今までに例を見ない夏休みでした。集中豪雨による被害は、^{9月号} 一時通行止めとなった場所もありましたが、大事に至ることもなく、全員が元気に2学期の始業式を迎えられたということを楽しんでいます。しかし、私たち自身もいつ、どこで自然災害に見舞われても不思議ではないくらい、近年に見られる異常気象・異常現象は、他人事とは思えません。

昔から「備えあれば憂いなし」という言葉をよく耳にしますが、一体、何をどのように備えておけばいいかということになります。以前、防災士の方に、下記の「2つの備え」の話がうかがったことがあります。

まず1つ目は、誰もがご存知のように「物資の備え」です。実際に、災害が起こったときに、必要となるものを前もって準備しておくということです。食料や水、情報を得るための機器（ラジオ等）、懐中電灯といった通常のライフラインが遮断されたときに必要とされるもので、「緊急時持ち出しグッズ」がこれにあたります。それ以外に、トイレ対策も大切だと言われています。実際、排泄を我慢して、病気になった方もいらっしゃるようです。排泄は、命にかかわるということです。

2つ目は、「心の備え」です。災害が起こると何が起こり、どのような状態が生じるのか、また、どうしたらいいかを知っておくことで、災害時に受ける心の衝撃を減らすことができ、パニックになるのを防ぐことができるということです。この「心の備え」があるかないかで、災害に直面したときの言動には、ずいぶん差が見られるようです。生じるであろう状況を知っていることで、その後の事態を予測した対応が可能であるということなのでしょう。

また、『NTT災害用伝言ダイヤル』や『携帯電話災害用伝言サービス』などの操作方法も事前に知っておくことも必要かもしれません。

自然災害は、いつどこで起こるか分からないし、私たち人間の力では防ぐことはできません。しかし、このように災害の被害や危険を減らすことはできるのです。尊い命を守るために、日頃からできる限りの備えをしておくことが大切だと、改めて思いました。